

参加
無料

“その先”を 考える医療へ

- 若年がん患者支援と妊孕性温存^{よう} -

がん治療の進歩により、若年世代の患者さんが“その先”の人生を描ける時代になりました。本講座の第1部では、小児・AYA世代のがん患者支援をテーマに、患者さんの体験談や、妊孕性温存^{よう}を含む支援の最新動向を県民の皆さまへわかりやすく紹介します。第2部では、医療者向けに妊孕性温存療法^{よう}の実際と課題を、専門家が症例を交えて解説します。支援を「知る」「学ぶ」ことから、未来につながる医療を一緒に考えていきましょう。



2026年

2.7 土

13:00～15:45

※ WEB同時配信（ハイブリッド）



講師
鈴木 直 先生
聖マリアンナ医科大学病院
副院長
聖マリアンナ医科大学
産婦人科学 主任教授

場所

ペリエホール D+E ※ JR千葉駅直結・ペリエ千葉本館7階

定員

60名

対象

千葉県民、がん患者・家族、医療従事者など

申込方法

2月5日（木）までに参加申し込みフォームよりお申し込みください。

URL：<https://forms.office.com/r/01ELaX17K0>

プログラム

第1部 県民公開講座 『小児・AYA世代がん患者への支援』

がんと向き合う若い世代の現状や支援、実際の患者さんの体験談、妊孕性温存^{よう}に関する意思決定のサポートについてお話しします。

第2部 医療者向け研修会 『妊孕性温存療法^{よう}の実際と課題』

がん・生殖医療の最新の知見と臨床現場での課題について、専門医と胚培養士から専門的な内容をお届けします。



Formsリンクへ
移動します

↑お申し込みは
こちらから

主催

千葉県がん・生殖医療ネットワークCOFNET
事務局：千葉県がん・生殖医療相談支援センター

千葉県がん・生殖医療
ネットワーク



第1部

13:00～14:30

県民公開講座『小児・AYA世代がん患者への支援』

※AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の略で、15歳～39歳の年齢層を指す言葉です



鈴木 直

「がん・生殖医療における、
将来子どもを授かる選択肢に関する意思決定支援」

PROFILE

聖マリアンナ医科大学病院産婦人科医師 がん治療医として、長年、小児・AYA世代がん患者に対する「がん・生殖医療」を推進してきた。がん患者さんが、「希望を持ってがんを闘う」ことができるよう、この領域の発展を願っている。



日野 もえ子

「AYA世代がん患者への
支援の現状とこれから
- 妊孕性温存療法をふくめて -」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院小児科医師 小児血液・がんの治療に携わる専門医 子どもと家族に寄り添い、「ともに治す医療」を大切にしている



中村 乃梨子

「小児がん経験者として
生きる今」

PROFILE

認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズスタッフ 自身の経験から、子どもと家族に寄り添う活動を行っている



佐久間 佳祐

「私の働き方
- 小児がんサバイバーとして -」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院看護師 がんサバイバーとしての経験を力に、患者と家族に寄り添う医療を届けている



江島 咲紀

「AYA世代がん患者のくらし
を支える」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院患者支援部のメディカルソーシャルワーカー、千葉県移行期医療支援センターの移行期医療支援コーディネーター

第2部

14:40～15:45

医療者向け研修会『妊孕性温存療法の実際と課題』

※妊孕性温存療法とは、がん患者さん等が将来子どもを授かるために、がん治療の前に胚（受精卵）や卵子、精子の凍結保存などを行う療法です



鈴木 直

「がん・生殖医療の
現状と課題」



平岡 謙一郎

「妊孕性温存療法
- 卵子／受精胚の凍結の実際 -」

PROFILE

亀田IVFクリニック幕張 培養室室長 管理胚培養士



塚本 祥吉

「造血器腫瘍患者における妊孕性温存
の実際 - 血液内科医の立場から -」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院血液内科医師 血液疾患全般、造血幹細胞移植、移植後フォローアップを専門とし、治療だけでなく、患者さんがその先の人生を描ける医療を目指している